



# BankARTschool

## April-May / June-July, 2010

Nakao Hiroshi, Iwabuchi Junko, Ohno Yoshito, Horikoshi Tetsumi, Nobutoki Masato, Imafuku Ryuta, Murata Makoto, Kobata Kazue, Ikeda Mitsuhiro, Ogawa Nozomu, Kaihatsu Yoshiaki, Sato Naoki, Nakamura Masato, Ito Kaori, Shimuta Nobuko, Ota Hiroshi, Haraguchi Noriyuki, Umewaka Naohiko, Suzuki Risaku

BankARTスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。

BankARTスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。

BankARTスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。この6年もの間で講座187、述べ547人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ2770人をこえます。

ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

月 mon. 19:30-21:30

仲尾 宏 朝鮮通信使への招待

4月5日、12日、19日、26日、5月3日、10日、17日、24日



江戸時代、12回にわたって朝鮮から招聘された朝鮮通信使は、200年にわたり平和と対等な交隣関係を目指す外交使節団であった。同時に人や文物の交流を通じて、相互のわかまりや誤解・偏見をときほぐしてゆく過程でもあった。この講座は、そのような多様な日朝関係の展開から未来への教訓を学ぶことを目指すものである。

ゲスト講師として北島万次氏(共立女子大学元教授)、辛美沙氏(アートフェア東京ディレクター)などを予定。
なかおひろし:1936年京都府生まれ。1960年同志社大学法学部政治学科卒業。現在、京都造形芸術大学客員教授。前近代日朝関係史専攻。主な著書に、『朝鮮通信使の軌跡』『朝鮮通信使と江戸時代の三部』『朝鮮通信使と徳川幕府』『朝鮮通信使と壬辰倭乱』『Q&A 在日韓国・朝鮮人問題の基礎知識』『朝鮮通信使をよみなおす―鎮国史観をこえて』(以上、明石書店)、『京都の渡来文化』(淡交社)、『朝鮮通信使―江戸日本への善隣使節』(日本放送出版協会)など他多数。

火 tue. 19:30-21:30

岩淵潤子 拡張するミュージアム 拡張する芸術のプラットフォーム

4月6日、13日、20日、27日、5月4日、11日、18日、25日



2004年以後、「情報デザイン」の要素を文化施設経営の重要な戦略として位置づけ、様々なプロジェクトを通じて模索・提案し続けている岩淵潤子が、近年の成果を紹介しながら、ミュージアムと情報デザインの望ましい関係について論じます。アート・サイトで役に立つ、無料のソーシャル・メディアや動画の活用方法、及びお金をかけない広報のあり方なども伝授。

いわぶちじゅんこ:美術館運営・管理研究者。AR Commons (http://www.arcommons.org) 代表。NYのホイットニー美術館給費研究員を経て、フィレンツェ、ロンドンで研究を続ける。静岡文化芸術大学助教授を経て、現在、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授。主な著書に『ニューヨーク午前0時 美術館は眠らない』、『美術館で愛を語る』など。

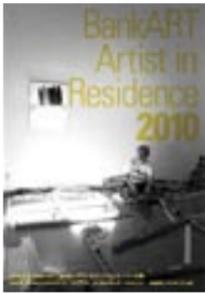
水 wed. 19:30-21:30

アーティストトーク @ BankART Pub

4月14日、21日、28日、5月5日、12日、19日(6回)



2010年度4~5月期にBankART Studio NYKに入居するスタジオアーティストを順々に紹介していきます。主にパブ空間を使っての1時間未満のショートトークです。入場無料です。グラスを片手に気軽にご参加下さい。



木 thu. 19:30-21:30

大野慶人 生活と舞踏

4月8日、15日、22日、29日、5月6日、13日、20日、27日



土方巽、大野一雄ともに「生活」が先生だとよく言っていました。生活のどこが先生なのだとは教えてくれませんでした。私のなかで舞踏の大切な課題として、ずっと考えてきました。立つ、歩く、起きる、紙一重、一心、大黒柱、絞る、重い、軽いなど、身近にある動作と言葉から、体と舞踏との結びつきを考えましょう。

おおのよしと:1938年東京生まれ。59年、土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。以後、アルト一雄、暗黒舞踏派公演に参加。85年「死海」で大野一雄と共演。86年以降は大野一雄の全作品を演出。98年、郡可正勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアン・グレイの最後の肖像」を上演。現在、国内外で公演活動を続ける。大野一雄舞踏研究所所長。著書に『大野一雄魂の糧』(フィルムアート社)。

金 fri. 19:30-21:30

堀越哲美 + 横浜市地球温暖化対策事業本部 ヒートアイランドから街を学ぶ

4月9日、16日、23日、30日、5月7日、14日、21日、28日



まちづくりのシーンでは、持続可能なものへとデザインメソッドの転換が求められています。都市では季節が実感できず、暑い夏はヒートアイランドがその原因として話題になります。そこで、横浜を題材にしてヒートアイランドとはなにかを探り出し、水辺や緑、風の道について説明し、ツール制作と実測などによってヒートアイランドを体感します。まとめとして環境のまちづくりの提案を目指します。ゲストとして、佐土原聡氏(横浜国立大学教授)、田中穂子氏(横浜国立大学助教)、石松丈佳氏(名古屋工業大学准教授)などを予定しています。

ほりこしてつみ:名古屋工業大学大学院教授。名古屋経営アドバイザー。専門は都市環境デザイン、五感によるまちづくりのデザイン手法を研究。94年世界都市産業会議における「名古屋風の道計画」都市の環境デザイン提案を行っている。著書に『快適環境の科学』(朝倉書店)『絵とき自然と住まいの環境』(彰国社)などがある。横浜市地球温暖化対策事業本部:信時正人氏を本部長に、世界の先例となる低炭素社会への転換を進め、環境モデル都市の実現にむけて取り組みを行っている。

土 sat. 16:00-18:00

今福龍太 (スキャンダル)考―アートと批評の政治学

4月10日、24日、5月1日、8日、15日、22日、29日、6月12日



Scandal、醜聞、不祥事、中傷、挑発。アートの先端はつねにスキャンダルに触れている。何ものかが芸術になろうとするとき、社会制度との摩擦としてスキャンダルの原理が発動される。それを全身で受けとめ、スキャンダラスに、美しく、深く生きた作家=批評家スーザン・ソントグ(1933-2004)。彼女の思考装置を点検しながら、書物、映画、写真、演劇の4つの切り口を媒介に、同時代のアートと批評の政治学的な位相について考える。

いまふくりゅうた:文化人類学者、批評家、現在、東京外国語大学大学院教授として表象文化論、群島論、時間形象論等を講義。サンパウロ・カトリック大学コミュニケーション・記号学大学院客員教授を兼任。キャンパスの外に新たな遊動的な学びの場の創造を求め、2002年より奄美群島において巡礼型の野外学舎「奄美自由大学」を主宰。主要著書に『クレオール主義』『野性のテクノロジー』『ここではない場所』『ミニマ・グラシア』『群島-世界論』など。

月 mon. 19:30-21:30

村田 真 映像な美術

6月7日、14日、21日、28日、7月5日、12日、19日、26日



動かない芸術表現である美術と、動く芸術メディアである映像。現代美術は映像表現を採り込んできたが、映像もまた美術を採り入れている。ここでは、画家の生涯やエピソードを撮ったドラマ映画、美術館や作品を追ったドキュメンタリー映画、アーティストが芸術作品としてつくったアート映画に分け、実際に映像を見ながら、美術がいかに映像化されてきたかを考える。

むらたまこと:1954年東京生まれ。東京造形大学卒業。びあ編集部を経てフリーランスの美術ジャーナリスト。東京造形大学および学習院女子大学非常勤講師、BankARTスクール校長。現在刊行中の小学館ウィークリーブック『西洋絵画の巨匠』(全50巻)のうち、「ゴッホ」「フェルメール」「ゴッガン」「プリューゲル」「モロー」「ドラクロワ」「ルーベンス」を校正・執筆。また、2010年春、BankART出版から10年間のレビュー集、『アートのみかた』を刊行。

火 tue. 19:30-21:30

アートイニシアティブの現在

6月8日、15日、22日、29日、7月6日、13日、20日、27日



BankART1929ではこれまで、文化庁の採択事業として、主に2008年度は国内、2009年度は外国を中心にしたアートイニシアティブ(オルタナティブスペース)の調査研究とその出版化を行ってきました。今回のゼミでは、それらの各施設に深く関係した(している)作家やクリエイターからお話を伺います。

■ゲスト講師(予定) 木幡和枝(アートプロデューサー) PS1を巡って 太田浩史(建築家/東京ビクニククラフ)イギリス北部のアートプロジェクト 池田光宏(アーティスト)スウェーデンと北欧のアートスペース 開発好明(アーティスト)ドイツベタニアンとNY ISCPに滞在して 佐藤直樹(アートディレクター/ASYL代表/CETプロデューサー) CETの行方 中村政人(アーティスト/コマンドN代表) スタート! 3331! 小川 希(Art Center Ongoing代表) Ongoingについて \*タイトルはBankARTの方で記載しました

水 wed. 19:30-21:30

伊藤香織×紫牟田伸子×太田浩史 シビックプライド講座

6月9日、16日、23日、30日、7月7日、14日、21日、28日



シビックプライド(=都市に対する愛着と自負)は、都市相互のグローバルな競争と連携の中で都市アイデンティティ形成に重要な役割を果たす。一方で、都市とコミュニケーションしながら個々人が自発的に創意を発揮する原動力になる。本講座では、都市と人との関係を多面的に捉えて国内外の都市の取り組み事例を紹介し、ワークショップ形式でシビックプライドと都市のコミュニケーションデザインを考える。

いとうかおり:東京理科大学准教授。都市デザイン/都市解析。紫牟田と共にシビックプライド研究会を主宰。著書に『シビックプライド:都市のコミュニケーションをデザインする』など。しむたのぶこ:日本デザインセンタープロデュース室チーフプロデューサー。商品企画、プロモーション企画、広告企画などを手がけるほか、国内外のデザイン動向を取材・執筆。おおたひろし:建築家、東京大学生産技術研究所講師、都市再生研究。主な作品に「DUET」「久が原のゲストハウス」、編集企画・執筆に「世界のSSD100―都市持続再生のツボ」など。

木 thu. 19:30-21:30

原口典之 抽象と具象の間 物質と行為の間 work on paper とデッサンの間

6月10日、17日、24日、7月1日、8日、15日、22日、29日



手つかずの白い紙についた跡は紙がめくりあがらないように押さえていた重しの跡、濡らし剥がしつなげていくまだ紙にふれていない描かれていない白い紙を見る、消していく作業を繰り返す。

昨年、BankART Studio NYKにて大規模な展覧会を開催した原口典之氏によるワークショップ第2弾。

はらぐちのりゆき:1946年神奈川県横浜須賀生まれ。77年「ドクメンタ6」(カッセル/ドイツ)での出品で衝撃的デビュー。主な展覧会は、89年「現代美術への視点/色彩とモノクローム」(東京国立近代美術館)、97年「光州ビエンナーレ」(光州/韓国)、2001年「NORIYUKI HARAGUCHI」(レンパツハハウス市立美術館/ミュンヘン)、07年「黒の方形-マレーヴィッチへのオマージュ」(ハンブルガー・クンストホール/ハンブルグ)、09年「原口典之展-社会と物質」(BankART Studio NYK)など。

金 fri. 19:30-21:30

梅若猶彦 アートにおける時空間の歪みに ついて―能の様式からみた考察

6月11日、18日、25日、7月2日、9日、16日、23日、30日



プログラム ①鑑賞と批評―良い映画と馬鹿な映画― ②~④ 能の基本動作の習得 ⑤ 第一部 謡曲の構造 第二部 現代劇の書き方と演出 ⑥ 受講者自身による作品の発表 ⑦ 作品発表・シンポジウム ⑧ シンポジウム「時空間の歪みという新しい手法について」(その有効性と興味期限)

劇団 Belibi-yo Strassburg Company は、梅若ゼミスクール受講生有志によって07年に結成。08年「食と現代美術 part4」にて、現代劇「イタリアンレストラン - 世界最高の演劇」を上演しました。従ってこのゼミを受講することは、半ば今回もこの劇団に入団するという半券を手にするでもあります。

うめわかなおひこ:能楽師シテ方。1958年大阪府箕面市生まれ。多くの能楽で自ら演じる傍ら、劇作家/演出家としても活動。最近では、「2010年日本・トルコ友好120周年芸術祭」のプレオープンングや、アンカラ国立オペラ座オペレッタ劇場、イスタンブール国立劇場での、現代能劇「レストラン-世界最高の演劇」の作/演出等を担当。現在、静岡文化芸術大学教授。またロンドン大学客員教授を経て、フィリピン大学デイリマン校客員教授。07年「Journees Theatrales De Carthage, edition 13」受賞。08年文化庁文化交流使。主な著書に「能楽への招待」(岩波書店)など。

土 sat. 16:00-18:00

鈴木理策

写真を自らのものとするために

6月12日、19日、26日、7月3日、10日、17日、24日、31日



参加者各自がこれまでに撮影してきた写真を講評し、いかに作品として形作っていくかを8回の授業を通して繰り返し検証していきます。更に参加者の写真に対する興味や関心の傾向に応じて、写真史を巡りながら見るべき写真家や作品も紹介する予定。機材の利便性が向上したことにより、「撮れ過ぎてしまう」写真の中から何を拾い上げ、次の撮影にどう活かすのかを考える機会とします。

すずきりさく:1963年和歌山県新宮市生まれ。第25回木村伊兵衛写真賞受賞。主な作品集に『熊野・雪・桜』(2007)『YUKI・SAKURA』(2007)。奈良県吉野山金剛峯寺本地堂にて写真展「SAKURA」を開催(2010)。東京藝術大学美術学部准教授。

BankARTスクールの概要 基本的に週1回、2ヶ月間で全8回。定員は20名程度。講座時間は19:30~21:30(土曜日は16:00~18:00)です。場所は、基本的にBankART Studio NYKになります。

スクール受講生の特典 受講生には学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物5%割引、BankARTパブおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

アシスタントの募集 BankARTスクールでは、講座の記録やサポートをお願いするアシスタントを募集しています。アシスタントの方は、記録担当の講座を無料で受講することができます。意欲のある方のご参加をお待ちしております。

お申し込み方法 ①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。1講座15,000円(税込み)。はじめての方は入学金3,000円(税込み)も一緒にお支払いいただきます。入金を確認でき次第、手続き完了となります。また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。なお定員になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。また、一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ:BankARTスクール事務局 school@bankart1929.com TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813 BankART Studio NYK 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9